



小見山 道

(日本大学松戸歯学部クラウンブリッジ補綴学講座)

『顎関節症の病態分類と診断基準』

<要旨>

日本顎関節学会では、顎関節症の病態分類を Diagnostic Criteria for Temporomandibular Disorders (DC/TMD)との整合性を配慮して行いました。そして「顎関節症の概念 2013」,「顎関節症の病態分類 2013」,「顎関節・咀嚼筋の疾患あるいは障害 2014」,「顎関節症と鑑別を要する疾患あるいは障害 2014」を公表しています。さらに「顎関節症の診断基準 (2019)」を発表し、それに沿った顎関節症の治療指針 2020 を公表しました。今回はこの診断基準に沿って、病態(咀嚼筋痛障害, 関節痛障害, 復位性関節円板障害, 非復位性関節円板障害, 変形性顎関節症)と診察, 開口域等の計測, 顎関節雑音の触知, 咀嚼筋・顎関節の触診などの検査から診断について解説し、さらに顎関節症治療の指針 2020 に沿って、各病態の基本治療について概説いたします。

まずは、本講演を顎関節症について診察、検査、診断から基本治療を再確認する機会として聴講ください。さらに今回の学術講演会では本講演に引き続き、画像による鑑別診断や歯原性疾患、有痛性疾患、口腔外科疾患などの鑑別が必要な疾患について各講師の先生からお話いただきます。本講演の内容を踏まえて、以降の講演を聴講ください。

<講演内容>

- I 顎関節症の病態分類
- II 顎関節症の診断基準
- III 各病態の病歴と診察

<専門医カリキュラム>

- ・顎関節症の病態を説明できる
- ・医療面接を実施できる
- ・口腔外の診察を実施できる
- ・顎関節症の診断および病態診断ができる

<略歴>

1989 年 日本大学松戸歯学部卒業
1990 年 日本大学松戸歯学部 総義歯補綴学講座
1998 年 日本大学 博士(歯学)
2001 年 日本大学助手(松戸歯学部・総合歯科診療学)
2002 年 日本大学講師(松戸歯学部・総合歯科診療学)
2003 年~2005 年 ベルギー王国ルーベンカトリック大学歯学部 客員教授
2011 年~日本大学准教授(松戸歯学部・顎口腔機能治療学)
2016 年~日本大学教授(松戸歯学部・顎口腔機能治療学, 2021 年~クラウンブリッジ補綴学)
日本大学松戸歯学部付属病院 顎関節咬合科科長

代表的所属学会:

日本顎関節学会(副理事長 指導医),
日本口腔顔面痛学会(常任理事 指導医)
日本補綴歯科学会(常務理事 指導医), 日本疼痛学会(代議員)
日本顎口腔機能学会(常任理事), 日本歯科心身医学会(評議員)
International Association of Dental Research (Past President for Neuroscience Group)
Asian Academy of Craniomandibular Disorders (Council member)
International Association for the Study of Pain



松本 邦史

（日本大学歯学部歯科放射線学講座）

『画像検査による顎関節症の鑑別診断』

<要旨>

画像検査は、顎関節症の病態分類や顎関節症と他の顎関節疾患の鑑別に欠かせない存在です。一方、画像検査の選択や正確な診断ができないと、画像検査自体が無駄になる可能性があります。今回の講演では、画像検査の特徴と正常像、臨床症状と照らし合わせた画像検査の効果的な選択、顎関節症の病態分類および他顎関節疾患の鑑別について押さえておきたい読像のポイントについて解説します。

<講演内容>

- I 正常解剖と画像検査の選択
 - 1. パノラマ X 線検査
 - 2. CT、CBCT
 - 3. MRI
- II 顎関節症の画像的特徴と鑑別
- III 顎関節症以外の顎関節疾患の鑑別

<専門医カリキュラム>

- ・顎関節症の病態を説明できる
- ・画像検査所見を説明できる
- ・顎関節症の診断および病態診断ができる
- ・顎関節症以外の顎関節疾患と鑑別できる
- ・顎関節症類似の臨床症状を呈する疾患と鑑別できる

<略歴>

- 2006 年 日本大学大学院歯学研究科修了（歯科放射線学）・博士（歯学）
- 2008 年 日本大学歯学部助教（歯科放射線学講座）
- 2016 年 鹿児島大学病院講師（顎顔面放射線科）
- 2019 年 日本大学歯学部助教（歯科放射線学講座）
- 2020 年 日本大学歯学部准教授（歯科放射線学講座）

歯科放射線専門医

日本歯科放射線学会（認定医・指導医）

日本顎関節学会（暫定指導医）



内田 貴之

(日本大学松戸歯学部 歯科総合診療学講座)

『顎関節症と鑑別が必要な疾患① (歯原性疾患:非歯原性歯痛を含む)』

<要旨>

「アゴが痛い」、「口が開かない」と訴える患者さんを診断するとき、まず「顎関節症」の病名が頭に浮かんでしまうことはないでしょうか。以前、顎関節症は「ゴミ箱的診断」の病名として、患者さんの訴えの原因がわからないとなんでも顎関節症とされていた時代がありました。また近年では顎関節症を専門に治療されている先生でも、つい診断に際しては顎関節症ではないかと先入観を持った診断をされてしまうこともあるようです。しかし歯科を受診する患者さんの多くは、当然ですが歯原性の疾患の患者さんがほとんどであり、顎関節症の診断の基本は「除外診断」であることを忘れてはいけません。

そこで本講演では、顎関節症様の症状を訴えた患者さんで、実際の診断は顎関節症ではなく、特に歯原性疾患であった症例などを紹介して、顎関節症に対するプライマリーな診断についてと、合わせて非歯原性歯痛についての解説をします。

<講演内容>

- I 顎関節症疾患における顎関節症
- II 医療面接時の顎関節症・他疾患の鑑別のポイント
- III 無痛性の強度な開口障害
- IV 顎関節症と類似した症状を訴える歯原性疾患
- V 非歯原性歯痛について

<専門医カリキュラム>

- ・医療面接を実施できる
- ・口腔外の診察を実施できる
- ・口腔内の診察を実施できる
- ・顎関節症類似疾患の臨床症状を呈する疾患と鑑別できる

<略歴>

- 1988 年 日本大学松戸歯学部卒業
- 1992 年 日本大学大学院松戸歯学研究科修了 博士（歯学）
- 1993 年 日本大学助手（松戸歯学部・口腔診断学）
- 2001 年 日本大学講師（松戸歯学部・口腔診断学）
- 2007 年 歯科総合診療学に講座名変更
- 2021 年 日本大学准教授（松戸歯学部・歯科総合診療学）
- 2022 年 日本大学教授（松戸歯学部・歯科総合診療学）
日本大学松戸歯学附属病院 総合歯科診療科科长

日本顎関節学会（理事・指導医・専門医）

日本口腔診断学会（代議員・指導医・認定医）

日本口腔顔面痛学会（指導医）

日本総合歯科学会（認定医）



村岡 渡

(川崎市立井田病院 歯科口腔外科)

『顎関節症と鑑別が必要な疾患② (有痛性疾患:神経障害性疼痛と頭痛を中心に)』

<要旨>

「顎関節症と鑑別を要する疾患あるいは障害 (日本顎関節学会 2014 年)」において、あごや顔面に痛みを生じることで、顎関節症を呈する疾患は多い。それらの鑑別におけるポイントを「痛み」の視点から改めて整理した。特に神経障害性疼痛および頭痛との鑑別診断とその病態の関連性も含め、具体的な症例を通して、重要性を提示したいと考えている。

<講演内容>

I 顎関節症と鑑別が必要な有痛性疾患

1. 神経障害性疼痛
 - 1) 発作性神経痛 (三叉神経痛、舌咽神経痛、他)
 - 2) 持続性神経痛 (帯状疱疹後神経痛、他)
2. 一次性頭痛 (片頭痛、緊張型頭痛、三叉神経・自律神経性頭痛)
3. 二次性頭痛 (顎関節症に起因する頭痛、他)

<専門医カリキュラム>

- ・ 痛みの基本事項を説明できる。
- ・ 顎関節症類似の臨床症状を呈する疾患と鑑別できる。
- ・ 各病態に対し治療・管理目標を設定できる。
- ・ 薬物療法を行える。(消炎鎮痛薬, 鎮痙薬*, 抗不安薬*・抗うつ薬*, その他)

注: 顎関節症患者に対して* の薬剤は有効な場合があるが, 適応外処方となるため, 医師との医療連携が望ましい

<略歴>

- 1997 年 鶴見大学歯学部卒業、慶應義塾大学医学部歯科・口腔外科研修医
- 1999 年 慶應義塾大学医学部歯科・口腔外科専修医、国立栃木病院歯科口腔外科医員
- 2001 年 清水市立病院口腔外科医員
- 2003 年 慶應義塾大学医学部歯科・口腔外科助手
- 2006 年 日野市立病院歯科口腔外科主任医員
- 2012 年 川崎市立井田病院歯科口腔外科医長
- 2017 年~川崎市立井田病院歯科口腔外科部長
慶應義塾大学医学部非常勤講師 (歯科・口腔外科学)

日本顎関節学会認定顎関節症専門医・指導医、代議員、学術委員会委員、専門医等試験委員会委員
日本口腔顔面痛学会専門医・指導医、常任理事
日本口腔外科学会認定口腔外科専門医
日本運動器疼痛学会代議員
口腔顔面神経機能学会理事
日本歯科薬物療法学会未承認薬対策委員会委員
Diplomate of American Board of Orofacial Pain (米国口腔顔面痛学会認定医)
Asian Academy of Orofacial Pain and Temporomandibular Disorders, Councilor



川上 哲司

(奈良県立医科大学 口腔外科学講座)

『顎関節症と鑑別が必要な疾患③ (外科的疾患)』

<要旨>

顎関節あるいは咀嚼筋障害を生じる疾患には、顎関節症だけではなく鑑別を要する外科的疾患もあり、中には緊急性を要する疾患も含まれている。外傷（顎関節脱臼、骨折）、炎症（感染性顎関節炎）、腫瘍および腫瘍類似疾患、顎関節強直症、特発性下顎頭吸収、咀嚼筋の疾患（咀嚼筋腱・腱膜過形成症等）、または、全身疾患に起因する自己免疫疾患（関節リウマチなど）、代謝性疾患（痛風など）がある。

今回、顎関節症と鑑別すべき顎関節痛を主症状とする外科的疾患、開口障害などの顎機能障害を主症状とする外科的疾患について解説する。

<講演内容>

- I 臨床症状が酷似するさまざまな疾患
- II 顎関節痛を主症状とする外科的疾患
- III 顎機能障害を主症状とする外科的疾患
- IV 鑑別診断のポイント

<専門医カリキュラム>

- ・顎関節症以外の顎関節疾患と鑑別できる
- ・外科的療法の適応症を判断できる

<略歴>

- 1984 年 3 月 神奈川歯科大学歯学部卒業
1984 年 4 月 奈良県立医科大学附属病院臨床研修医
1986 年 4 月 奈良県立医科大学附属病院医員
1993 年 5 月 奈良県立医科大学助手（口腔外科学講座）
1996 年 1 月 アメリカ合州国カリフォルニア大学ロサンゼルス校（文部科学省在外研究員）
1998 年 4 月 奈良県立医科大学講師（口腔外科学講座）
2016 年 4 月 奈良県立医科大学非常勤講師（口腔外科学講座）

- | | |
|------------|-------------|
| 日本顎関節学会 | 理事、指導医・専門医 |
| 日本口腔外科学会 | 代議員、指導医・専門医 |
| 日本口腔顔面痛学会 | 評議員、指導医・専門医 |
| 日本睡眠歯科学会 | 評議員、指導医・専門医 |
| 日本小児口腔外科学会 | 代議員、指導医・認定医 |
| 日本歯科麻酔学会 | 認定医 |
| 日本口腔科学会 | 指導医・認定医 |